

—国内動向—

1 東京都・大阪市中央卸売市場の需給動向（令和8年6月）

【ポイント】

- 気温は、北日本で高かった。降水量は、北・東・西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多かった。日照時間は、北日本日本海側でかなり多かった。
- 東京都中央卸売市場における野菜の入荷量は10万4865トン、前年同月比99.0%、価格は1キログラム当たり296円、同102.1%となった。
- 大阪市中央卸売市場における野菜の入荷量は3万3309トン、前年同月比99.9%、価格は1キログラム当たり270円、同105.1%となった。
- 今年の果菜類の出荷量は平年通り8月の盆前後がピークになり、7～8月の市場価格は安定した展開になると予想される。

（1）気象概況

梅雨前線が東日本太平洋側と西日本付近に停滞し、前線上の低気圧が周期的に通過した。上旬には台風第6号が沖縄・奄美付近から東・西日本の太平洋沿岸付近を通過し、3日には和歌山県南部に上陸した。また、下旬には台風第7号が台風第6号と近い進路で日本付近を通過し、台風第8号も東日本の太平洋沿岸付近を通過した。台風通過前後の3日には徳島県、和歌山県、静岡県、神奈川県で、24日には鹿児島県で線状降水帯が発生した。このため、月降水量は東・西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、西日本日本海側で多かった。また、月間日照時間は東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。北日本を中心に天気は数日の周期で変化した。中旬を中心に移動性高気圧に覆われやすかったため、月間日照時間は北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側と東日本日本海側で多かった。一方、上旬と下旬を中心に低気圧の影響を受けやすかったため、月降水量は北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側で多かった。全国的に上旬と下旬を中心に冷涼な空気の影響を受けやすかったが、中旬は高気圧に覆われ晴れの日が多かったことや、北日本を中心に暖かい空気に覆われやすかったため、月平均気温は北日本で高かった。

○平均気温は、北日本では高かった。東日本、西日本、沖縄・奄美では平年並だった。

○降水量は、北日本太平洋側、東日本太平洋側、西日本太平洋側、沖縄・奄美ではかなり多かった。北日本日本海側、西日本日本海側では多かった。東日本日本海側では平年並だった。

○日照時間は、北日本日本海側ではかなり多かった。北日本太平洋側、東日本日本海側では多かった。東日本太平洋側、西日本太平洋側、沖縄・奄美では少なかった。西日本日本海側では平年並だった。

旬別の平均気温、降水量、日照時間は図1の通り。

（出典：気象庁HP「2026年6月の天候」）

図 1 気象概況

	平均気温			降水量			日照時間		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本									
東日本						日本海側 太平洋側			日本海側 太平洋側
西日本					日本海側 太平洋側			日本海側 太平洋側	日本海側 太平洋側

資料：気象庁「6月の天候」

1 平年を上回る水準				2 平年並み				3 平年を下回る水準			
------------	--	--	--	--------	--	--	--	------------	--	--	--

(2) 東京都中央卸売市場

東京都中央卸売市場における野菜の入荷量は10万4865トン、前年同月比99.0%、価

格は1キログラム当たり296円、同102.1%となった（表1）。

表 1 東京都中央卸売市場の動向（6月速報）

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格 (円/kg)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格（円/kg）の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	104,865	99.0	93.4	296	102.1	108.4	286	300	302
だいこん	5,917	102.5	92.6	107	94.1	105.3	89	107	128
にんじん	5,408	111.7	95.7	167	91.0	102.8	168	169	165
はくさい	5,605	103.9	95.5	79	120.4	115.1	62	90	83
キャベツ類	13,010	94.7	87.1	85	119.0	101.5	84	83	89
ほうれんそう	1,435	113.8	108.7	475	97.5	101.8	483	471	473
ねぎ	3,258	99.3	93.6	399	100.7	99.4	398	403	394
ブロッコリー	2,214	90.7	95.8	547	110.3	117.7	536	577	528
レタス類	8,056	100.1	102.2	139	105.6	100.2	148	150	122
きゅうり	5,932	94.1	87.3	339	104.2	128.6	282	362	377
なす	2,579	97.3	85.8	434	101.3	111.9	404	458	436
トマト	6,138	93.1	86.4	416	121.4	129.7	396	415	440
ピーマン	2,368	115.4	102.5	471	86.2	99.8	481	427	518
ばれいしょ	6,813	94.5	97.6	175	106.5	98.3	148	185	210
さといも	86	126.9	79.8	551	80.1	99.2	508	546	623
たまねぎ	8,490	103.8	99.0	106	75.4	75.4	87	109	132

資料：東京青果物情報センター「青果物流通月報・旬報」
注1：平年比は過去5カ年（令和3～7年）平均との比較。
注2：豊洲、大田、豊島、淀橋、葛西、北足立、板橋、世田谷、多摩ニュータウンの9市場のデータである。

根菜類は、だいこんの価格が、下旬に向け上昇し、高値で推移した前年をやや下回り、平年をやや上回った（図2）。

葉茎菜類は、ブロッコリーの価格が、やや高めに推移した前年を1割ほど上回り、平年を2割近く上回った（図3）。

果菜類は、きゅうりの価格が、中旬以降上昇し、高値で推移した前年をやや上回り、平年を3割近く上回った（図4）。

土物類は、たまねぎの価格が、前年、平年ともに2割以上下回った（図5）。

なお、品目別の詳細については表2の通り。

図2 だいこんの入荷量と卸売価格の推移

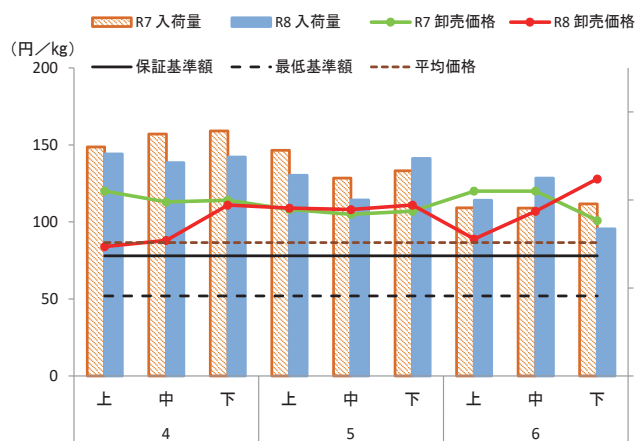


図3 ブロッコリーの入荷量と卸売価格の推移

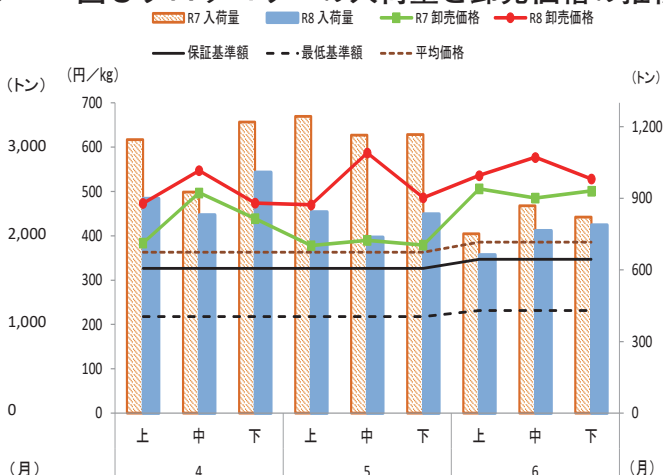


図4 きゅうりの入荷量と卸売価格の推移

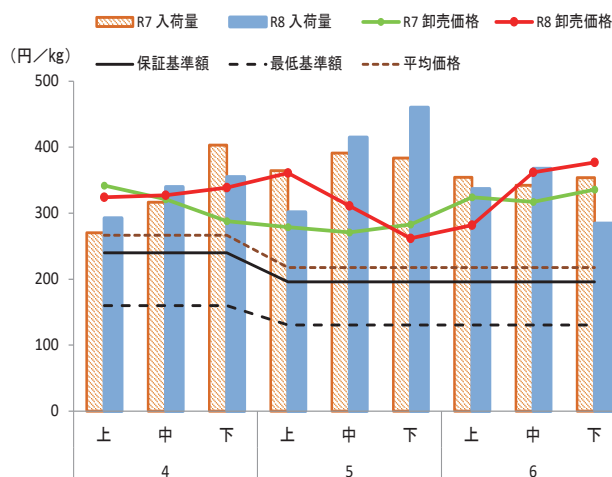
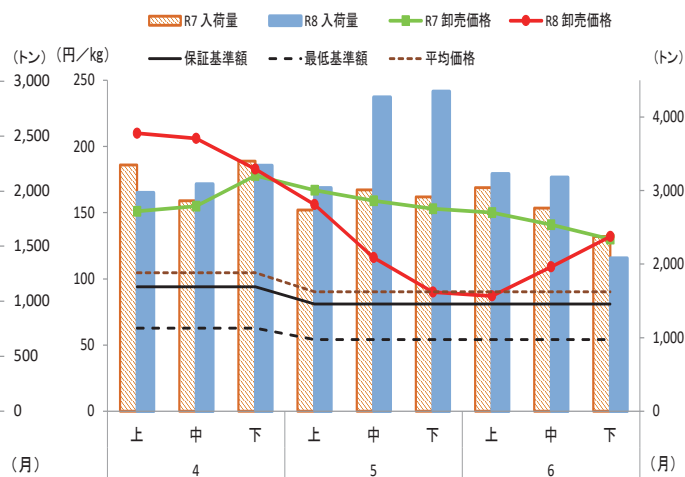


図5 たまねぎの入荷量と卸売価格の推移



資料：東京青果物情報センター「青果物流通旬報」

注1：卸売価格とは、東京都中央卸売市場の平均卸売価格で、指定野菜価格安定対策事業（以下「事業」という）における平均価格、保証基準額および最低基準額とは、関東ブロックにおける価格である。

注2：平均価格とは、事業における過去6カ年の卸売市場を平均した価格を基に物価指数などを加味した価格である。

注3：事業における価格差補給交付金は、平均販売価額（出荷された野菜の旬別およびブロック別の平均価額）を下回った場合に交付されるため、上記の各表で卸売価格が保証基準額を下回ったからといって、交付されるとは限らない。

表2 品目別入荷量・価格の動向（東京都中央卸売市場）

類別	品目	6月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん 	青森産中心の入荷であった。作付面積は前年を上回り、生育期の乾燥傾向により4～5日ほど生育が遅延し、収穫が6月にずれ込んだ。やや形状にばらつきが見られる。月間入荷量は、少なかった前年をわずかに上回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は下旬に向け上昇し、高値で推移した前年をやや下回り、平年をやや上回った。
	にんじん 	千葉産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、播種期の低温・乾燥により初期生育の遅延が散見されたが、適度な降雨と気温の上昇により回復している。サイズは、L・M中心である。後続の北海道産の生育は順調で、7～10日ほど前進している。輸入の中国産は前年を2割以上下回っている。月間入荷量は、少なかった前年を1割以上上回り、平年をやや下回った。 価格は、月間を通してあまり動きはなく、高値で推移した前年を1割近く下回り、平年をわずかに上回った。
葉茎菜類	はくさい 	長野産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、乾燥傾向で遅延していた生育は、4月からの気温の上昇と降雨で回復した。茨城産の残量も中旬までにほぼ終了した。月間入荷量は、少なかった前年をやや上回り、平年をやや下回った。 価格は、茨城産が終了となった中旬以降、堅調に推移し、前年を2割強上回り、平年を1割以上上回った。
	キャベツ類 	群馬産を中心に千葉産、茨城産などの入荷があった。群馬産の作付面積は前年並みで、降霜や乾燥などの影響はあったものの、定期的な降雨に恵まれ生育はおおむね順調である。千葉産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調で残量も多い。やや虫害が散見される。茨城産の作付面積は前年並みで、降雨と気温の上昇により、生育は順調でやや前進傾向である。月間入荷量は、少なかった前年をやや下回り、平年を1割以上下回った。 価格は堅調に推移し、安値で推移した前年を2割近く上回り、平年をわずかに上回った。
	ほうれんそう 	群馬産を中心に茨城産、栃木産の入荷があった。群馬産の作付面積は前年並みで、高冷地露地作は前進し、中旬以降はハウス物中心であった。生育はおおむね順調である。茨城産の作付面積は前年並みで、前年のこまつな価格が低迷し、気温の極端な上昇がなかったことから切り替えが進まず、残量が多い。栃木産の作付面積は前年並みで、一部で虫害が散見されるがおおむね順調である。月間入荷量は、前年を1割以上上回り、平年を1割近く上回った。 価格は、前年をわずかに下回り、平年をわずかに上回った。
	ねぎ 	茨城産を中心に千葉産などの入荷があった。茨城産の作付面積は前年並みで、初夏ねぎ、夏ねぎともに適度な降雨と気温の上昇により生育は順調である。肥大も良好で、サイズは2Lが中心である。降雨の影響により、入荷がやや不安定であった。千葉産の作付面積は前年並みで、適度な降雨と気温の上昇により、肥大がよく生育は順調である。病害が散見されるが、大きな影響はない。後続の秋田産など東北産地もおおむね順調であった。輸入の中国産は前年を下回った。月間入荷量は、少なかった前年をわずかに下回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、月間を通して大きな動きはなく、前年をわずかに上回り、平年をわずかに下回った。
	ブロッコリー 	北海道産を中心に長野産などの入荷があった。北海道産の作付面積は前年並みで、気温の上昇により生育は順調で、やや前進傾向である。長野産の作付面積は前年並みで、低温・乾燥で遅れていた初期生育は、気温の上昇と降雨により回復し、順調である。月間入荷量は、やや多かった前年を1割近く下回り、平年をやや下回った。 価格は、やや高めに推移した前年を1割ほど上回り、平年を2割近く上回った。
	レタス類 	長野産を中心に群馬産の入荷があった。長野産の作付面積は前年並みで、干ばつ傾向で停滞気味だった生育は、適度な降雨と気温の上昇により回復し、おおむね順調である。群馬産の作付面積は前年並みで、低温・乾燥での初期成育の停滞は、気温の上昇に伴い回復し順調である。月間入荷量は、前年並みで、平年をわずかに上回った。 価格は、下旬に落ち着き、前年をやや上回り、前年並みであった。

果菜類	きゅうり	 埼玉産、群馬産を中心に福島産などの入荷があった。埼玉産の作付面積は前年並みで、気温の上昇と湿度の高さから生育は順調である。病害が散見されるが、大きな影響はない。群馬産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調だが、促成作は終盤となり病虫害が散見される。福島産の作付面積は前年並みで、半促成作はシーズンの後半となり、一部で成り疲れが散見されたものの生育はおおむね順調である。無加温物は、4月の気温低下の影響があったが、生育はおおむね順調である。月間入荷量は、少なかった前年をやや下回り、平年を1割以上下回った。 価格は、中旬以降上昇し、高値で推移した前年をやや上回り、平年を3割近く上回った。
	なす	 高知産を中心に群馬産などの入荷であった。高知産の作付面積は前年並みで、生育は気温の上昇と日照に恵まれ、おおむね順調であった。着果負担による樹勢の低下が散見される。一部で病害が散見されるが、大きな影響はない。群馬産の作付面積は前年並みで、生育は順調だが、露地物の一部で、高温・乾燥および強風の影響が見られるほか、虫害が散見される。総入荷量は、少なかった前年をわずかに下回り、平年を1割以上下回った。 価格は、高知産が減少に向かった中旬以降上昇し、前年をわずかに上回り、平年を1割以上上回った。
	トマト	 栃木産、熊本産を中心に愛知産、千葉産などの入荷があった。栃木産の作付面積は前年並みで、収穫は終盤である。生育はおおむね順調だが、気温の上昇に伴い病虫害が増加している。熊本産の作付面積は前年並みで、病害が一部で散見されているが、生育はおおむね順調である。数量は下旬に向け漸減している。愛知産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調だが、虫害が増加傾向にある。千葉産の作付面積は前年並みで、曇雨天の影響はあったが、気温の上昇から生育は前年並みが維持されている。病虫害が散見されるが、大きな影響はない。月間入荷量は、少なかった前年をかなりの程度下回り、平年を1割以上下回った。 価格は、旬を追うごとに上昇し、やや高値で推移した前年を2割以上上回り、平年を3割弱上回った。
	ピーマン	 茨城産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、4月から曇雨天が続いた影響により、一部で花落ちが散見されているほか、収穫遅れが散見される。月間入荷量は、少なかった前年を1割以上上回り、平年をわずかに上回った。 価格は、中旬に落ち着いたもののやや乱高下し、高値で推移した前年を1割以上下回り、前年並みとなった。
土物類	ばれいしょ	 長崎産を中心に、静岡産などの入荷があった。長崎産の作付面積は前年並みで、気候の安定から生育は全体的に前進した。玉肥大もよく豊作傾向だが、下旬には切り上がった。静岡産の作付面積は、前年をやや下回った。温暖な気候に恵まれ生育は順調だが、圃場の切り替わりに伴いやや小玉傾向である。月間入荷量は、やや多かった前年をやや下回り、平年をわずかに下回った。 価格は、入荷量の減少から下旬に向かって上昇し、安値で推移した前年をかなりの程度上回り、平年をわずかに下回った。
	さといも	 鹿児島産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、病害の発生も少なくおおむね順調だが、商系の出回りが大部分を占め、全体量も少ない。輸入の中国産については、前年を上回っている。月間入荷量は、大幅に少なかった前年を2割以上上回り、平年を2割ほど下回った。 価格は、絶対量の不足から堅調に推移し、高値で推移した前年を2割ほど下回り、平年をわずかに下回った。
	たまねぎ	 佐賀産を中心に兵庫産などの入荷があった。佐賀産の作付面積は前年並みで、気温の上昇と降雨により生育は順調で肥大も良好である。一部の圃場で病虫害の発生が散見される。兵庫産の作付面積は前年並みで、適度な降雨により玉肥大は良好であったが、上旬の台風の影響を受け冠水被害があり、品質低下が散見される。輸入の中国産は前年を下回り、ニュージーランド産は4割以上下回った。月間入荷量は、少なかった前年をやや上回り、平年をわずかに下回った。 豊作基調のため上旬まで流通在庫過多の状況が続ぎ、中旬以降改善されたものの、価格は前年、平年とも2割以上下回った。

(執筆者：東京シティ青果株式会社 平田 実)

(3) 大阪市中央卸売市場

大阪市中央卸売市場における野菜の入荷量は3万3309トン、前年同月比99.9%、価

格は1キログラム当たり270円、同105.1%となった(表3)。

品目別の詳細については表4の通り。

表3 大阪市中央卸売市場の動向(6月速報)

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格 (円/kg)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格(円/kg)の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	33,309	99.9	93.6	270	105.1	111.2	259	272	281
だいこん	1,960	108.5	96.3	124	102.5	113.2	113	123	134
にんじん	2,262	103.6	91.8	156	104.2	111.1	149	158	161
はくさい	3,061	94.6	96.7	84	113.0	108.8	71	90	91
キャベツ類	4,409	112.2	103.7	95	121.9	106.2	95	92	99
ほうれんそう	354	85.5	79.9	693	105.8	114.5	660	698	721
ねぎ	691	103.8	121.0	509	113.2	107.4	517	498	516
ブロッコリー	422	101.2	99.3	553	111.0	120.7	494	591	573
レタス類	2,079	103.9	100.7	138	103.9	97.8	141	155	119
きゅうり	1,268	94.0	79.6	336	102.9	129.9	271	364	377
なす	1,216	107.9	105.7	369	99.3	105.6	362	378	366
トマト	1,798	88.4	89.5	386	113.2	118.3	369	381	414
ピーマン	683	114.4	115.0	397	85.5	98.0	361	371	479
ばれいしょ	2,231	88.7	86.3	178	127.4	114.5	140	195	216
さといも	20	69.9	80.0	594	76.4	95.2	598	569	613
たまねぎ	3,080	87.6	78.4	123	89.0	87.7	98	125	147

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年比は過去5カ年(令和3～7年)平均との比較。

注2：大阪本場および大阪東部市場のデータである。

表4 品目別入荷量・価格の動向(大阪市中央卸売市場)

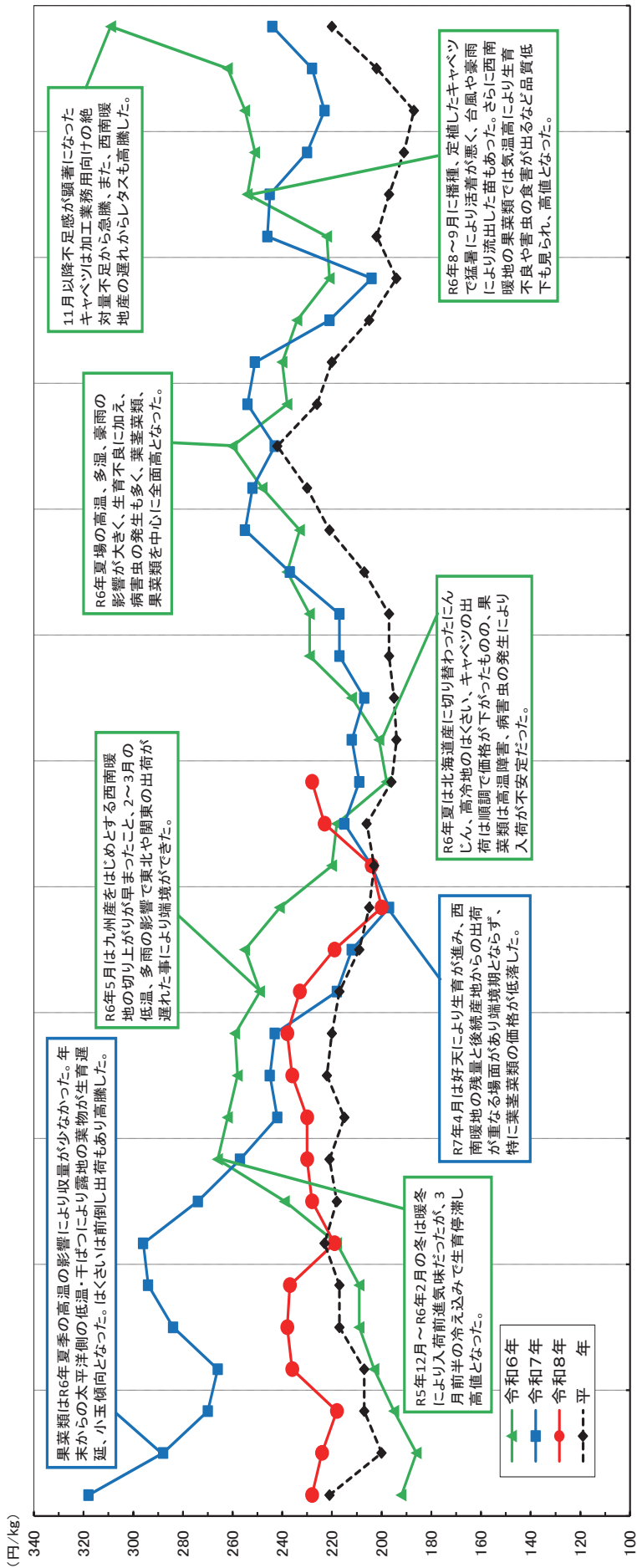
類別	品目	6月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん 	北海道産と青森産が主体となる入荷であった。和歌山産の残量が月の前半まで、後続の岐阜産が中旬以降入荷した。各産地とも潤沢な出荷が続き、太物が多く全旬を通して安定した入荷となった。月間入荷量は前年をかなりの程度上回り、平年をやや下回った。 価格は、一定の需要がある中、安定した入荷が続き、太物が多く品質も良好であったことから、旬を追うごとに上伸び、月間では高かった前年をわずかに上回り、平年をかなり大きく上回った。
	にんじん 	長崎産と和歌山産が主体となり、兵庫産の入荷や徳島産の残量が入荷し、下旬には後続の北海道産の入荷もあった。各産地とも生育は順調で、安定した産地出荷が続いたが、前進出荷気味で下旬には減少した。しかし、北海道産も前進出荷で下旬にスタートしたため、大きな落ち込みはなく、月全体としては安定した入荷となった。月間入荷量は前年をやや上回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、中旬に入荷増量となる中、各産地とも前進出荷気味であったことから、切り上げりが懸念され上伸び続けた。月間では前年をやや上回り、平年をかなり大きく上回った。

葉茎菜類	はくさい	長野産を中心に、上旬までは茨城産の残量入荷が若干あった。干ばつが続く中で、中旬以降に気温が下がり、朝晩の冷え込みもあって生育が進まず玉伸びしなかったことから産地出荷量が伸びず、月間入荷量は前年、平年ともにやや下回った。 価格は、時期的に需要が少なく、気温上昇とともに下落の見込みであったが、消費地でも気温が下がり、入荷量も減ったことから持ち直し、中旬に上伸して高値で推移した。月間全体では、前年をかなり大きく上回り、平年をかなりの程度上回った。
	キャベツ類	月の前半は愛知産と茨城産の入荷が主体となり、下旬から後続の夏秋産地である長野産と群馬産がスタートして切り替わっていった。愛知産の残量が多く、全旬とも潤沢な集荷が続き、月間では前年の2.5倍もの入荷量となった。茨城産も順調な集荷が続いたが、後続の長野産と群馬産は気温が低く、産地出荷量が伸びずに前年を大幅に下回った。しかし、月間入荷量は、前年をかなり大きく上回り、平年をやや上回った。 価格は、初夏産地が終盤となる中で、後続産地の遅れから端境が懸念されたことにより下落せず、また、夏秋産地が高値スタートとなったことで、全体としても高値を維持した。月間では、前年を2割以上上回り、平年をかなりの程度上回った。
	ほうれんそう	岐阜産が中心となる入荷であった。産地での土壌消毒の作業があり、出荷量が伸び悩む中で、消費地の引き合いも弱かったことから、入荷量が少ない状況が続いた。月間入荷量は前年をかなり大きく下回り、平年を2割以上下回った。 価格は、引き合いが弱く、産地出荷量が少なく入荷量が伸びないため、旬を追うごとに微増傾向ではあったが、大きな動きとはならず、月間では前年をやや上回り、平年をかなり大きく上回った。
	ねぎ（白ねぎ）	鳥取産と茨城産が主体となる入荷であった。鳥取産は夏ねぎの生育が良好で、潤沢な産地出荷が続いた。中旬には前年の2倍近くの入荷量となり、月間入荷量も前年を大きく上回った。茨城産も順調な入荷が続き、月間入荷量は前年をかなり上回った。 価格は、消費地が朝晩は比較的涼しい日が多く一定の需要があり、入荷増量の中でも下落することなく安定推移した。月間の価格は前年をやや上回った。
	ねぎ（青ねぎ）	青ねぎは、徳島産を中心に高知産や香川産、また、近隣の大阪産や奈良産の入荷があった。細ねぎは、高知産と静岡産の入荷であった。各地とも生育良好で、台風の影響による大雨の被害なども少なく、順調な入荷となった。全体では旬を追うごとに入荷増量傾向となり、月間入荷量は前年を若干下回った。 価格は、業務筋からの発注などが多く、一定の引き合いが続いたため、高値を維持し、月間では前年を大きく上回った。
	ブロッコリー	石川産と長野産が主体となる入荷であった。月の前半は石川産が中心となったが、切り上がりが早く、主産地の徳島産も上旬で切り上がった。後続の長野産、北海道産がスタートするも入荷量が伸びず、全体としては旬を追うごとに減少した。月間入荷量は、前年をわずかに上回り、平年をわずかに下回った。 価格は、不足感から高値で推移し、主産地の切り上がりとともに中旬以降に高騰した。月間の価格は、前年をかなり大きく上回り、平年を2割以上上回った。
	レタス類	玉レタスは長野産の入荷であった。前月までの干ばつの影響が残り、スタートは入荷量が伸び悩んだが、中旬からは降雨もあり旬を追うごとに増加し、月間入荷量は前年をかなり上回った。サニーレタスは長野産中心で、玉レタス同様に、中旬以降に入荷増量し、月間では前年をやや上回った。リーフレタスも長野産の入荷で、玉レタスやサニーレタスと同様に月の前半は入荷量が伸びず、後半に増量傾向となった。レタス類全体の入荷量は、前年をやや上回り、平年をわずかに上回った。 玉レタスの価格は、月の前半は入荷量が伸び悩み高値で推移したが、増加に伴って下旬に下落し、月間では前年並みとなった。サニーレタスとリーフレタスは、入荷量が増量となる中でも高値で推移し、レタス類全体の月間の価格は、前年をやや上回り、平年をわずかに下回った。

果菜類	きゅうり	上旬までの中心は宮崎産で、中旬以降は後続の夏秋産地の福島産が中心となり、高知産などの入荷もあった。宮崎産など初夏の産地は前進出荷気味で残量が少なく、入荷量が伸びず月間で前年を大幅に下回った。また、福島産など夏秋産地は気温が上がらず、スタートが遅れたため、全体的に月の前半の入荷量が少なく、月間入荷量は、前年をかなりの程度下回り、平年を2割以上下回った。 価格は、不足感から中旬以降に高騰して高値で推移した。月間では、高値だった前年をわずかに上回り、平年を3割近く上回った。
	なす	千両系は高知産を中心に大阪産など、また後続の京都産や下旬には群馬産などの入荷があった。長なすは福岡産と熊本産が主体となり、後続の愛媛産の入荷があった。冬春産地は前進出荷傾向で残量が少なく、後続の夏秋産地は気温が上がらずにスタートが遅れ気味となり、入荷量は伸び悩んだが、月間全体では前年をかなりの程度上回り、平年をやや上回った。 価格は、不足感がある中でも安定して推移し、月間では前年をわずかに下回り、平年をやや上回った。
	トマト	愛知産を中心に、石川産や熊本産も主体となる入荷であった。冬春産地は前進出荷で切り上がり早く、中旬以降に入荷量が減少傾向となり、後続の夏秋産地もスタートせず、月間入荷量は、前年をかなり大きく下回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、不足感に加えて、後続の夏秋産地の気温が上がらずにスタートが遅くなる見込みから、旬を追うごとに上伸した。月間では前年をかなり大きく上回り、平年を大幅に上回った。
	ピーマン	高知産と宮崎産が主体となる入荷であった。系統産地がほぼ終了となり、切り上がっていき、全体でも旬を追うごとに入荷減量となったが、学校給食などの需要があり、系統外の業者で対応し、月間入荷量は、前年、平年ともにかなり大きく上回った。 価格は、入荷量自体が多かったこともあり、比較的安価で推移し、月間では前年をかなり大きく下回り、平年をわずかに下回った。
土物類	ばれいしょ	丸芋は、長崎産が中心となる入荷であったが、前進出荷で産地残量が少なく旬を追うごとに入荷減量となった。月間入荷量は、前年を大幅に下回った。メークインは長崎産が主体となり、熊本産、鹿児島産の入荷があった。長崎産が前進出荷で産地残量が少なく、下旬に切り上がり他産地で補填する形となったが、月間全体の入荷量は旬を追うごとに減少し、前年を大幅に下回った。ばれいしょ全体の月間入荷量は、前年、平年ともにかなり大きく下回った。 価格は、不足感から旬を追うごとに高騰し、月間では前年を3割近く上回り、平年をかなり大きく上回った。
	さといも	鹿児島産の入荷があったが、降雨の影響などにより産地出荷量が少なく、入荷は週に2回程度と限定的で量も少なかったため、前年の半分以下の入荷量にとどまった。輸入の中国産が補填する形で入荷したが、全体量としては少なく、月間入荷量は、前年を3割以上下回り、平年を2割下回った。 価格は、限定的な入荷となったことや、輸入の中国産の比率が高かったことから、全体としては安値で推移した。月間では前年を2割以上下回り、平年をやや下回った。
	たまねぎ	兵庫産が中心となる入荷であった。月の前半の田植えの時期に悪天候の日が多く作業が遅れたため、たまねぎの収穫や出荷の作業も影響を受けて遅れが生じ、JA、産地業者の持ち込みが少なく、産地出荷量が少ない状況が続いた。大阪産や輸入の中国産などの入荷もあったが、月間入荷量は、前年をかなり大きく下回り、平年を2割以上下回った。 価格は、入荷量が少ない中で積極的な売り込みができず、業務向けは輸入物の利用が増えたため、全体的に安値で推移した。月間では前年、平年ともにかなり大きく下回った。

(執筆：東果大阪株式会社 新開 茂樹)

(参考) 指定野菜 (15品目) の卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (月)

(単位：円/kg)

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月													
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬												
令和6年	188	180	188	195	202	204	210	230	255	251	249	249	240	245	237	212	210	191	193	206	221	223	232	228	240	253	231	231	227	215	215	244	243	245	252	295
令和7年	306	279	260	257	274	285	290	270	253	236	236	235	212	205	191	196	206	199	204	199	211	211	232	249	243	233	246	242	212	196	236	236	222	215	220	237
令和8年	222	215	210	229	231	233	215	221	223	230	236	238	233	219	200	204	223	228																		
平年	214	193	199	200	210	211	216	213	215	211	218	216	214	206	202	200	202	193	191	192	194	194	204	219	226	238	223	216	202	191	199	193	187	183	199	216

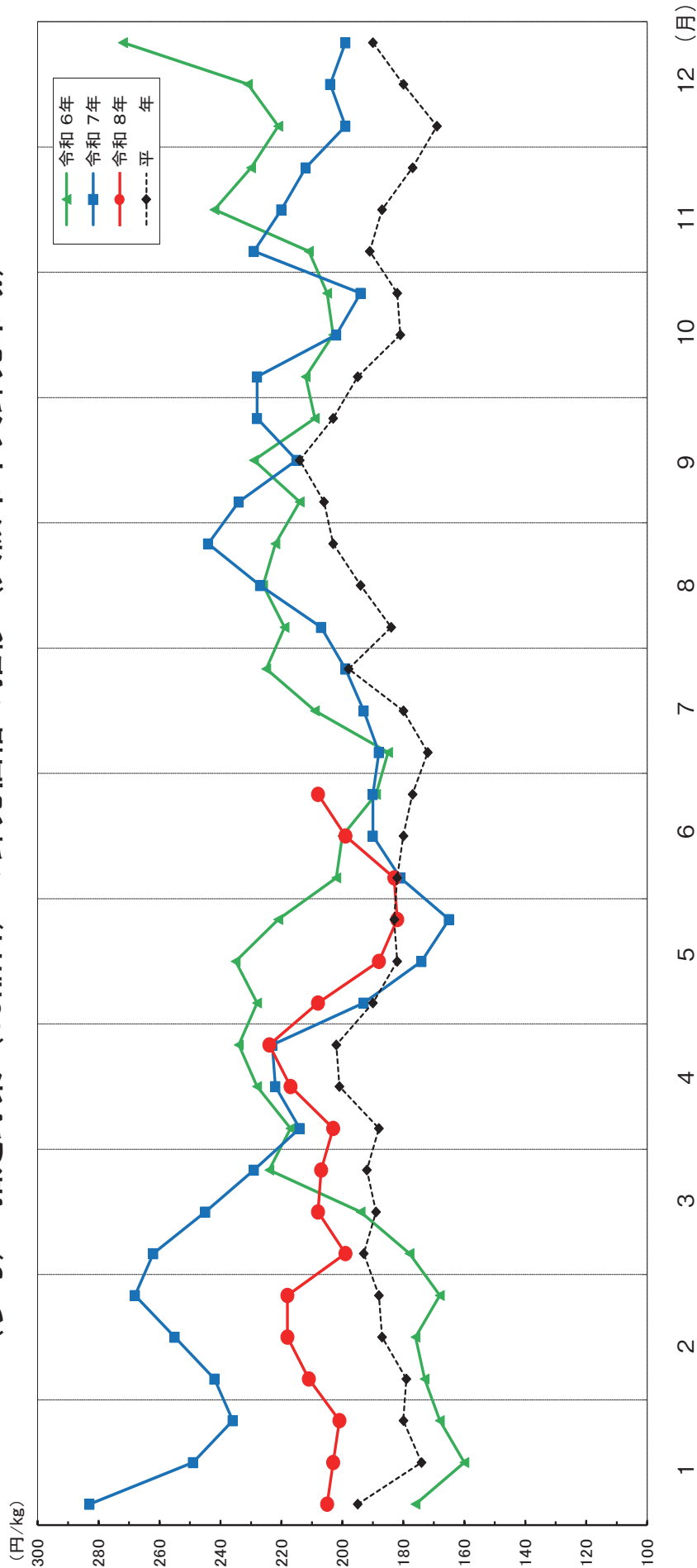
資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年とは、過去5カ年（令和3年～7年）の月別価格の平均値である。

注2：豊洲市場、大田市場、豊島市場、淀橋市場の4市場のデータである。

注3：令和8年6月号（4月実績掲載分）以降、指定野菜はブロッコリーを含む15品目のデータである。なお、平年、令和6年、7年のデータもブロッコリーを含む。

(参考) 指定野菜 (15品目) の卸売価格の推移 (大阪市中央卸売市場)



(単位：円/kg)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
令和 6 年	173	156	165	170	173	165	174	191	219	214	224	229
令和 7 年	278	245	231	238	249	263	259	243	227	211	218	220
令和 8 年	201	198	197	207	215	196	204	203	217	224	208	188
平 年	191	171	176	176	183	184	189	187	190	185	198	198

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注 1：平年とは、過去5カ年（令和3年～7年）の旬別価格の平均値である。

注 2：大阪本場及び大阪東部市場のデータである。

注 3：令和8年6月号（4月実績掲載分）以降、指定野菜はブロッコリーを含む15品目のデータである。なお、平年、令和6年、7年のデータもブロッコリーを含む。